



火星の最接近 2001年5月22日発行

6月22日に、火星が地球へ6734万kmまで最接近します。
火星は地球のすぐ外側をまわっている惑星で、地球が太陽と火星の間に来て、3天体が一直線上に並んだときに火星・地球間の距離が最も近くなります。

このころ地上から見た火星は、太陽と正反対の方向に見えますので、日の入り時に東から出て、一晩中観測できます。
地球が、太陽のまわりを1回公転する日数は365日ですが、火星の公転周期は、687日です。そして、火星の接近は、2年2か月ごとにおこります。

ところで、地球の軌道はほぼ円形ですが、火星は円から少しずれただ円軌道でまわっています。

ですから、火星と地球の軌道の間隔は、近いところと遠いところがあります。
火星の接近のときの距離は、近いときで約5600万km(大接近)、遠いときで約1億km(小接近)と接近のたびごとに違います。

今年は、大接近の1つ手前の接近で、見かけの大きさは、20.8秒角になります。
そのころ、90倍の望遠鏡で見ると、肉眼で見る満月と同じ大きさに見えます。

